



豪雨被災地へ 市職員を派遣

7月上旬に西日本を襲った豪雨の被災地を支援するため、市職員4人を岡山県総社市、倉敷市に派遣しました。職員は7月31日から8月2日まで、避難所で健康相談や支援活動を行いました。健康相談では、長期にわたる避難で体調の変化や不安を訴える方から相談を受けました。支援活動は、本市と特定非営利活動法人AMDA（アマダ）との協定で、協力自治体としてのものです。

懐かしい記憶を未来に引き継ぐ

市制施行60周年記念事業の一環として、明治から昭和にかけて市内で撮影された写真等を紹介する写真展「懐かしの阿南」を7月21日から8月24日まで、市役所で開催しました。展示した写真は、市民の皆さまから提供された約2,000枚のうち400枚。会場では大人から子どもまで、幅広い世代の方が写真を観賞され、「忘れかけていた風景を思い出した」といった感想が聞かれました。



農林水産物消費拡大へ アドバイザー委嘱

本市の農林水産物を幅広く周知し、消費拡大を図るため、「阿南市農林水産物消費拡大アドバイザー」制度を創設し、7月25日に新居希予さん（39歳・那賀川町）を初めて委嘱しました。新居さんは、伝統米の栽培に携っているほか、学校の食育やケーブルテレビ出演などを通して食と人をつなぐ活動を行っています。委嘱期間は3年間。新居さんには、消費拡大に向けた幅広いPR活動を担っていただきます。



文理大生 地域活性化を考える

徳島文理大学3年生8人が、那賀川地区の地域活性化策と防災を考えようと、8月1日にあなんスマート・ワークオフィスや科学センター、出島の堤防などで現地調査を行いました。学生は、住民や行政に地区の現状と課題を聞き取り。調査した内容を精査し、地域活性化策を考えました。本市と同大学は、地域の発展と人材育成を目的とした連携協力をする協定を締結しています。



市ホームページからご覧いただけます。
<http://www.city.anan.tokushima.jp/>



船員ってどんな仕事？ 海運業をPR

普段あまり目にすることがない、海運業や船員の仕事の魅力を子どもたちに発信しようと、ふなごころ阿南まちづくり協議会が「海のお仕事PRイベント」を7月22日、牛岐城趾公園で開催し、友だち同士や親子連れ404人の来場者でにぎわいました。

会場では、船に関するクイズや、オリジナルの缶バッジ作りなど、さまざまな催しで海運業の内容を伝えていました。子どもたちからは「船で新幹線や電車を運んでいることにびっくりした」という感想がよく聞かれ、海運業の役割をしっかりと学んでいるようすでした。

阿南にいらっしゃい 移住出張相談会開催

首都圏在住者を本市への移住につなげるため「移住なんでも出張相談会 in 日比谷」を7月14日、東京事務所で開催し、4組7人から移住相談を受けました。「地方で子育てがしたい」「阿南市での暮らしや住居について話を聞きたい」などの相談がありました。平成29年度は、移住促進コーディネーターの配置などが功を奏し、県外から本市への移住者は167世帯235人で、県内自治体の中で1位でした。



オペラ「かぐや姫」 平井秀明さんが指導

市民参加型オペラ「かぐや姫」に出演する市民合唱団の練習が情報文化センターなどで行われています。オペラは竹取物語を題材に、国内外で上演され好評を博しています。このオペラは、市制施行60周年記念事業として11月24日、25日に情報文化センターで上演されます。7月21日にオペラの作曲者で指揮者の平井秀明さんによる練習会があり、合唱団員25人が指導を受けました。



糖尿病 正しい理解と予防を

糖尿病について正しい理解を深め、予防につなげるため「糖尿病講演会」を7月24日に健康づくりセンター健康広場で開催し、80人が参加しました。阿南天満クリニック糖尿病専門医の天満 仁さんなどが、糖尿病発症のメカニズムをわかりやすく解説。適切に血糖値をコントロールするための食事や運動を説明しました。また、会場内では血糖・血圧測定や健康相談も行われました。

